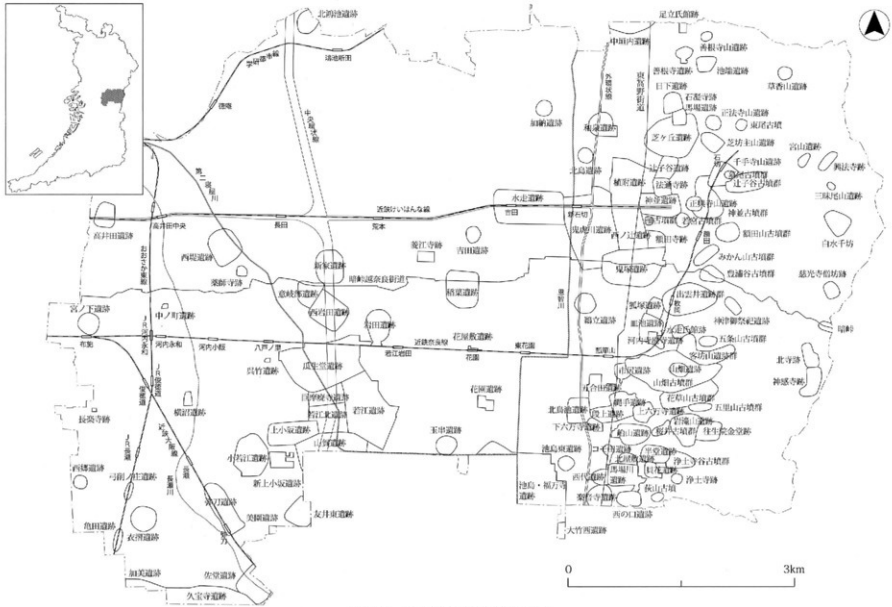
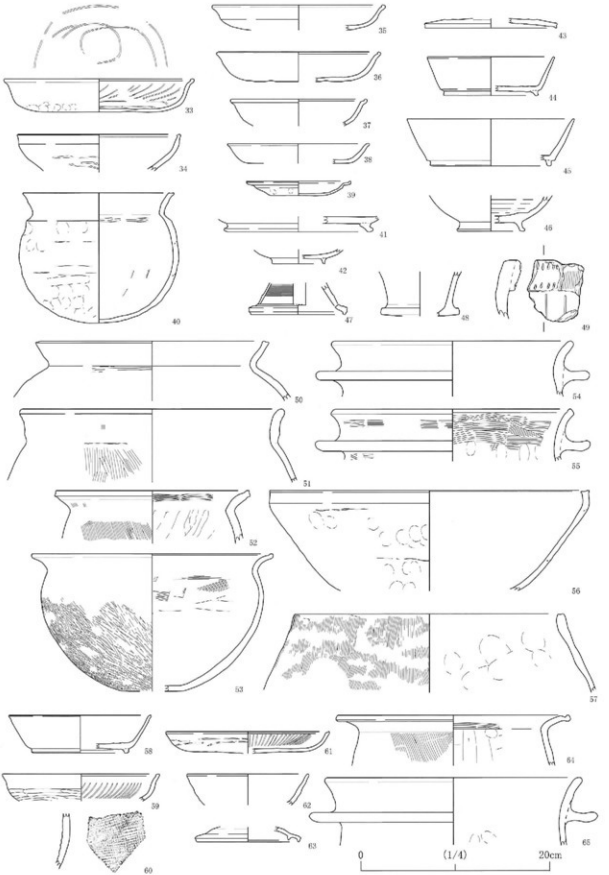
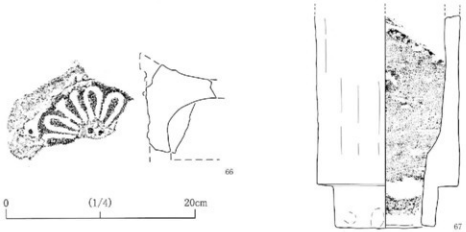


第１図　東大阪市内の遺跡分布図



第６図　皿池遺跡第 10 次調査出土遺物実測図



第7図　皿池遺跡第10次調査出土遺物実測図

目タタキが残る。5世紀後半。

下層（第7～14層）

61は土師器杯、62は須恵器杯、63は須恵器杯蓋、64は土師器甕、65は土師器羽釜である。61は放射状の暗文を持ち、外面に粗いヘラミガキを施す。63は7世紀後半。64は口縁部を大きく外反させ、端部を上部に肥厚させる。外面は粗いハケメ、内面はケズリののちナデを施す。平安Ⅰ期。時期を記したもの以外はいずれも8世紀後半である。

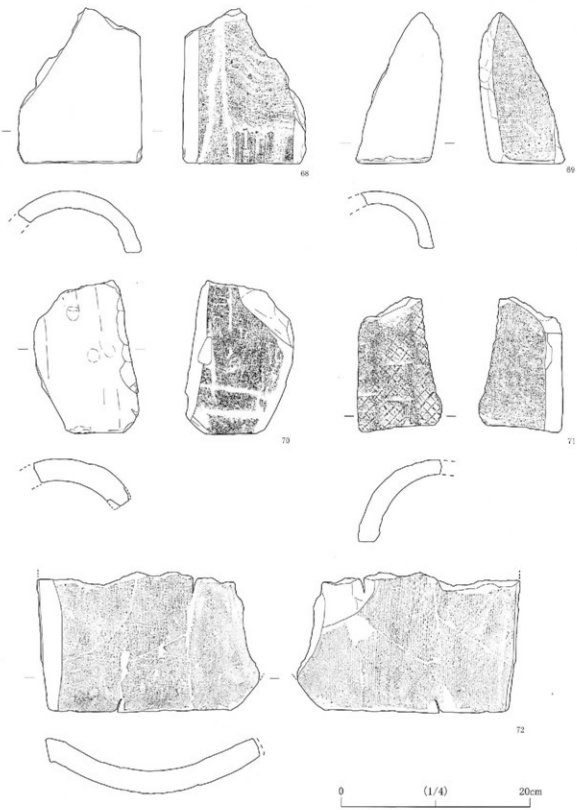
瓦（第7～10図）

66は単弁十二葉蓮華紋軒丸瓦である。平安時代中期。67は瓦質の土管である。内面には布目が残る。68～71・74は丸瓦である。68～70・74の凸面は縄目タタキを施したのちナデ消しを行っている。凹面は布目が残る。71の凸面は格子目タタキを施す。7世紀代であろう。72～73・75～77は平瓦である。外面に縄目タタキが施され、内面に布目が残る。71を除いていずれの瓦も奈良時代～平安時代と考えられるが、詳細な時期は不明である。66・70～77は第4～6層、67は第8層、68・69は第5層からの出土である。

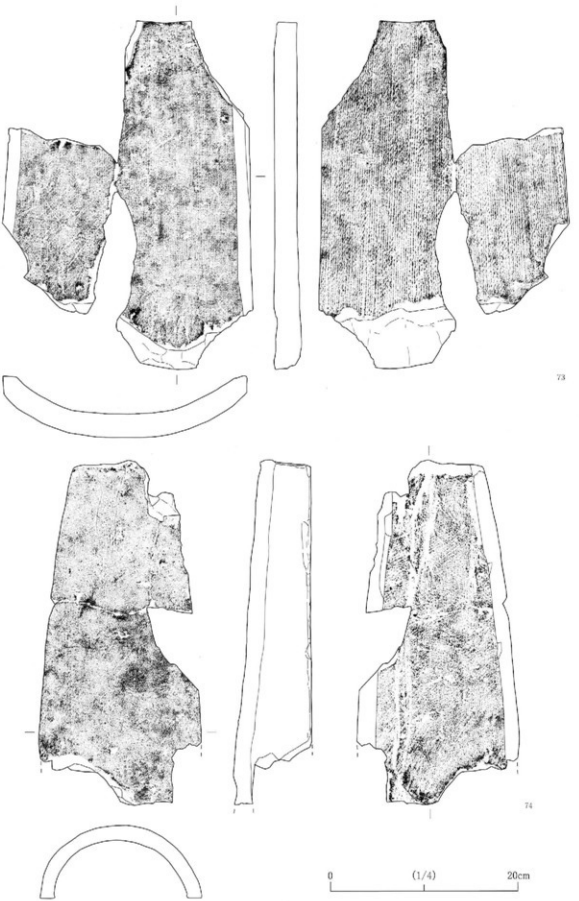
5）まとめ

付近の過去の調査を見ていく。平成14年に、皿池遺跡第4次調査が本調査区の南西約20mの地点で行われた。当該調査では、弥生時代中期から後期にかけて埋没した東から西方向へ流れる河川跡や古墳時代から鎌倉時代にかけて存続した集落に伴う遺構を検出した。このうち、古墳時代から中世まで続いたとされる集落跡の遺構面のレベルは、T.P.18.7m付近である。今回の調査で検出した溝1が切込む第9層又は12層上面でT.P.19.0m～19.1m、さらに上層のトレンチの大部分を覆うと考えられる炭層でT.P.19.3m前後である。調査トレンチの範囲が限られており断言はできないが、今回検出した遺構及び遺構面は、調査地は、西から東へと傾斜し、レベルが上がっていく自然地形であることも考慮すると、第4次調査で検出された弥生時代後期に河川又は谷地形が埋没した後に営まれた集落跡の延長である可能性が考えられる。しかし、上層で行われた大規模な盛土によって第4次調査で検出された古代から中世にかけての遺構面との間に約1.3mの高低差が生じた。盛土が行われた時期は、出土遺物より平安時代中期頃と考えられ、この時期に大規模な土地の改変が行われたことが分かる。

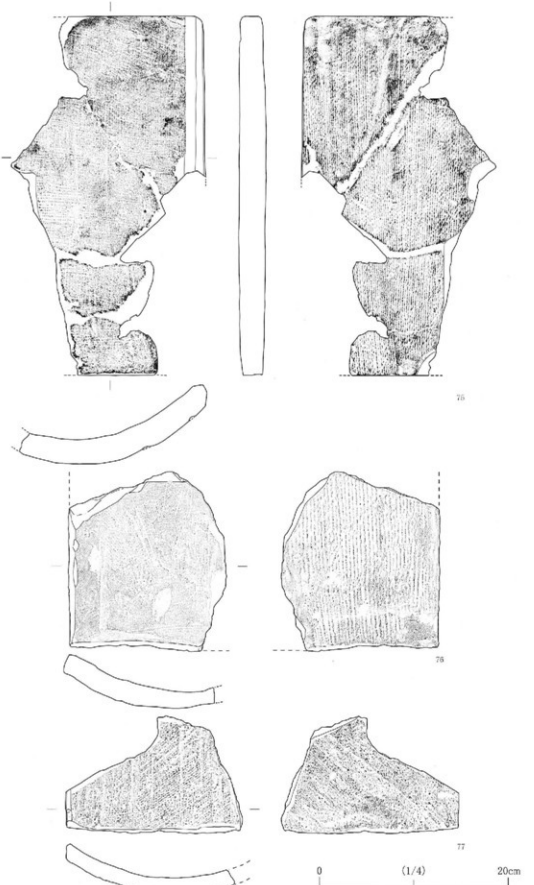
この土地改変に伴う上層の盛土層と関連する整地層が、調査地前面で行われた下水道管きょ築造工



第８図　皿池遺跡第 10 次調査出土遺物実測図



第9図　皿池遺跡第10次調査出土遺物実測図

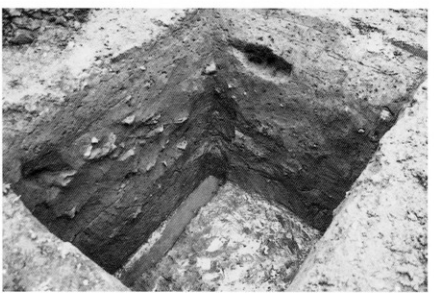


第 10 図　皿池遺跡第 10 次調査出土遺物実測図

図版1　皿池遺跡第10次発掘調査　遺構

1．本調査箇所
調査風景
（南東より）

2．本調査箇所
完掘状況
（東より）

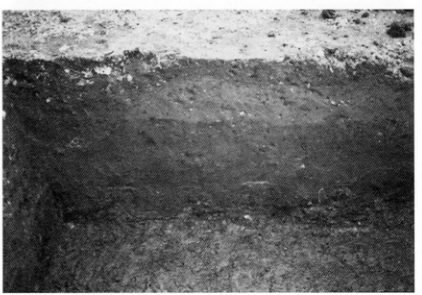


3．本調査箇所
完掘状況
（南西より）

図版2　皿池遺跡第11次発掘調査　遺構

1．確認査箇所
調査風景
（北東より）

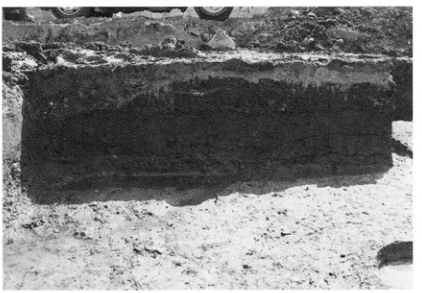
2．確認査箇所
東壁断面
（西より）



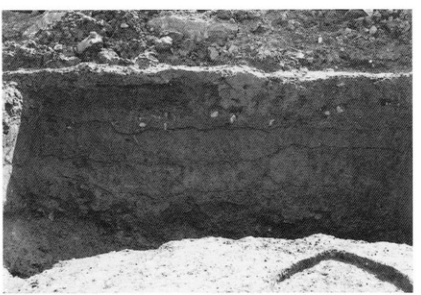
3．確認査箇所
南壁断面
（北より）

図版3　皿池遺跡第11次発掘調査　遺構

1．本調査箇所
機械掘削状況
（東より）



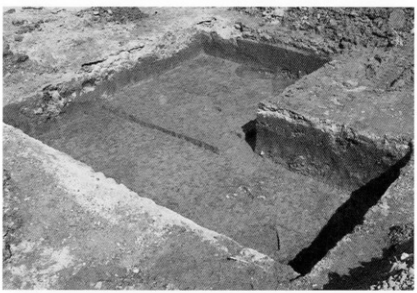
2．本調査箇所
東壁断面1
（南より）



3．本調査箇所
東壁断面2
（西より）

図版4　皿池遺跡第11次発掘調査　遺構

1．本調査箇所
完掘状況
（西より）



2．本調査箇所
完掘状況
（南東より）

3．本調査箇所
完掘状況
（北より）

図版5　皿池遺跡第10次発掘調査　遺物

1

14

17

28

27

39

32

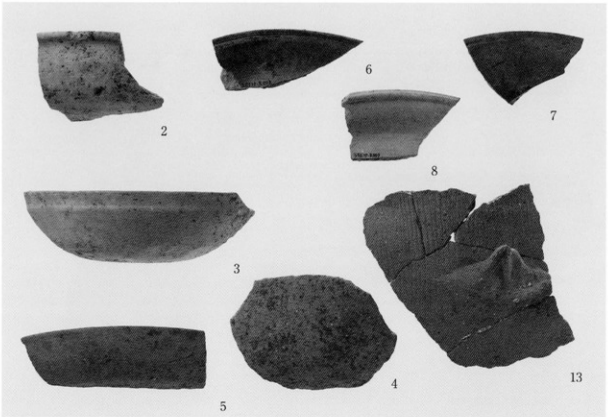
40

53

66

第5層、第7層、上層（第4～6層）出土　古式土師器・土師器・須恵器・軒丸瓦

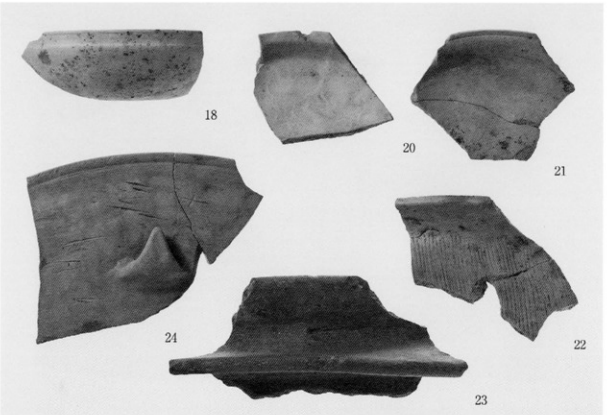
図版6　皿池遺跡第10次発掘調査　遺物



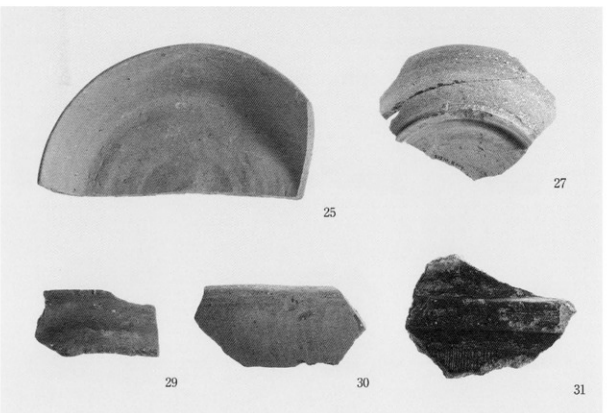
1．第5層出土　土師器

2．第5層出土　須恵器

図版7　皿池遺跡第10次発掘調査　遺物

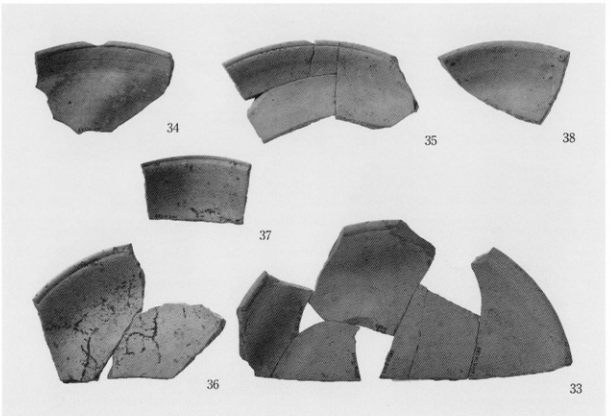


1．第7層出土　土師器

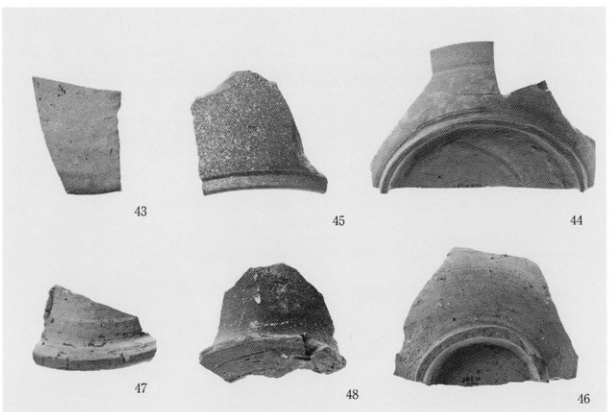


2．第7層出土　須恵器・埴輪・弥生土器

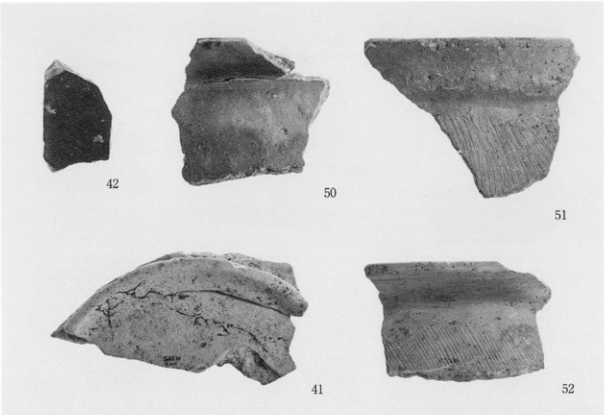
図版8　皿池遺跡第10次発掘調査　遺物



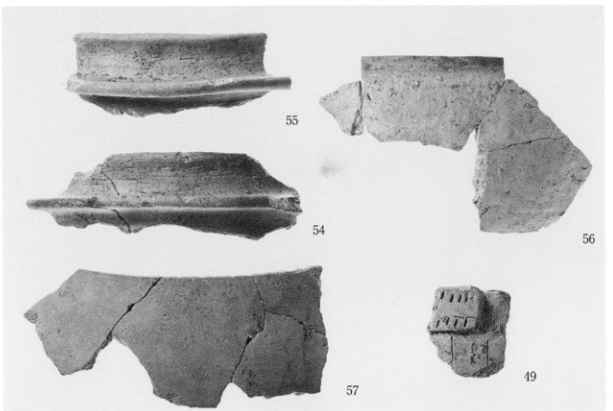
1．上層（第4～6層）出土　土師器



2．上層（第4～6層）出土　須恵器

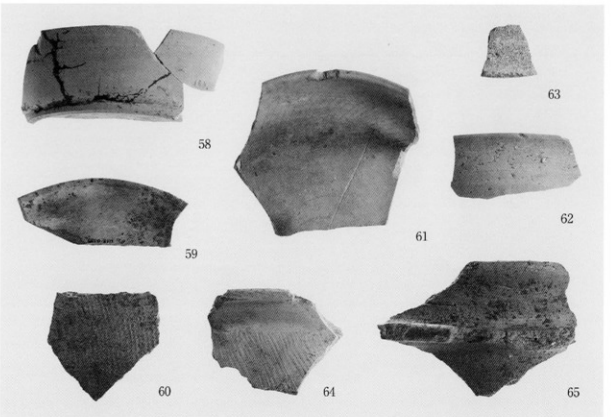


1．上層（第4～6層）、第8・9層出土　黒色土器・土師器



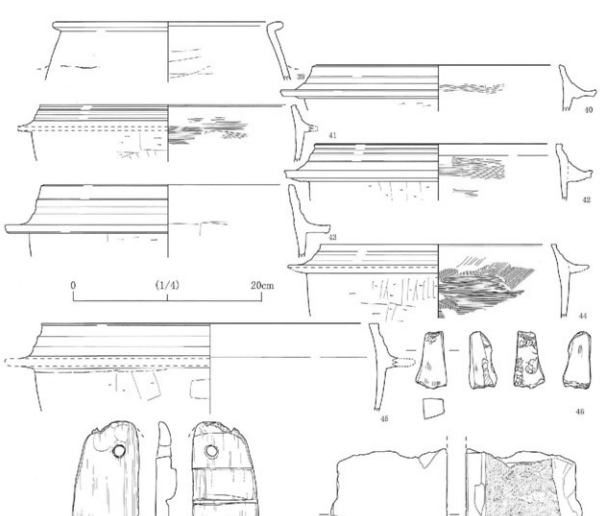
2．上層（第4～6層）、第8・9層出土　土師器・埴輪

図版10　皿池遺跡第10次発掘調査　遺物



1．下層（第7～14層）出土　土師器・須恵器・韓式系土器

2．第8層出土　土管



第５図　横沼遺跡第１次調査出土遺物実測図

持つ。いずれも 15 世紀代であろう。46 は砥石である。上下以外の４面すべてが使用されており、かなり使い込まれた印象を受ける。凝灰岩製。47 は下駄である。右側 1/3 程度が欠落している。鼻緒をかける部分の磨滅が激しく、またつま先の凹みからもかなり使い込まれ、破損したものと考えられる。48 は丸瓦である。凹面には布目とコビキ痕が認められる。また縁の部分には面取りが施される。

５）まとめ

出土した遺物はいずれも 12 世紀後半から 15 世紀のものである。先述のとおり調査区すべてが池または湿地であり、生活を示す遺構は検出できなかった。ただし、遺物に二次堆積による磨滅は認められず、いずれの遺物も近隣から廃棄されたものと推測される。調査地点の北や東でも確認調査を行っているが、堆積状況は近似しているにも関わらず、遺物は発見できていない。今回出土した遺物を廃棄した中世の集落は、調査地点よりもさらに南側に広がっていたと考えられる。近世以降は長瀬川より供給される砂が厚く堆積しており、砂を利用した畑を営んでいたと考えられる。

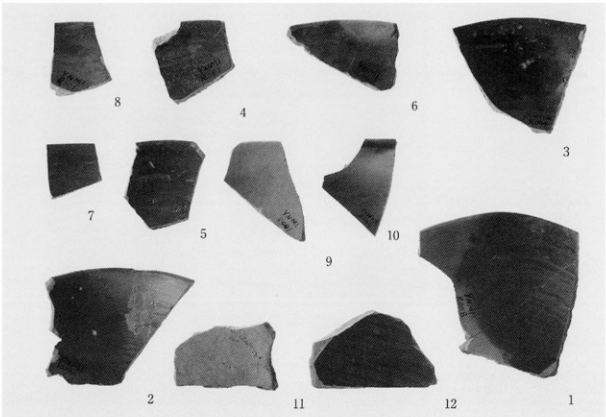
図版1　横沼遺跡第1次発掘調査　遺構

1．調査風景
（南西より）

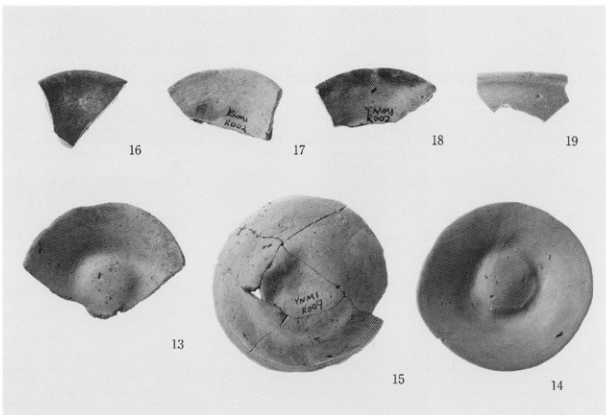
2．本調査箇所
（西より）

3．本調査箇所断面
（南東より）

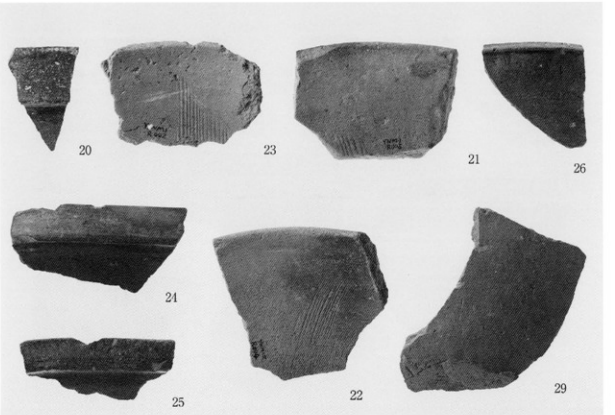
図版2　横沼遺跡第1次発掘調査　遺物



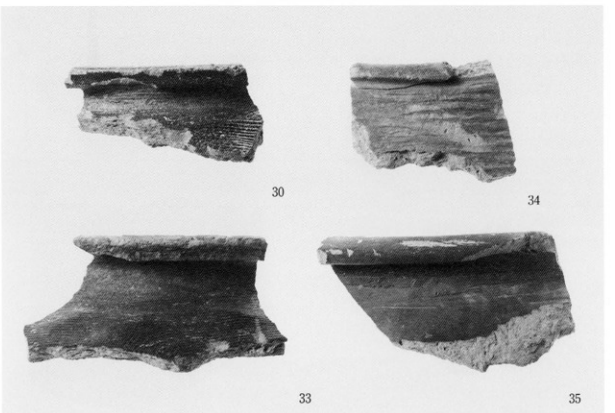
1．第3層出土　瓦器



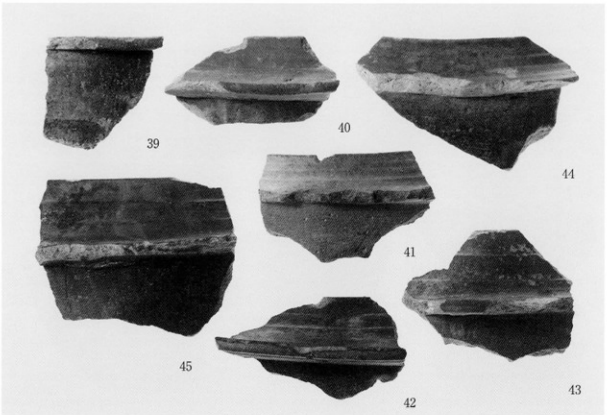
2．第3層出土　瓦器、土師器、青磁



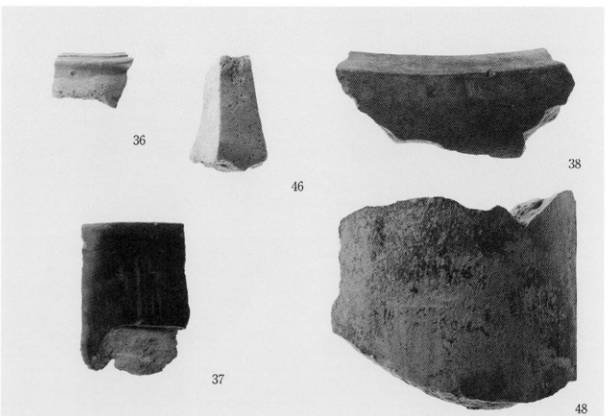
1．第3層出土　陶器、瓦質土器、須恵器



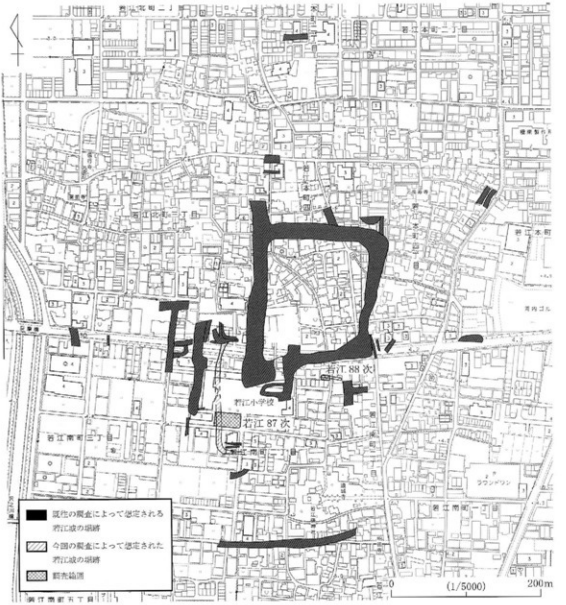
2．第3層出土　須恵器、瓦質土器



1．第3層出土　土師質土器、瓦質土器



2．第3層出土　瓦器、瓦質土器、砥石、瓦



第19図　若江城関係堀検出位置図（大阪府文化財調査研究センター1996に加筆）

【参考文献】

財団法人東大阪市文化財協会 1988『若江遺跡第35次発掘調査報告』

財団法人東大阪市文化財協会 1988『若江遺跡第27次発掘調査報告』

東大阪市教育委員会 1999『埋蔵文化財調査概報集－1998年度（2）－』

東大阪市遺跡保護調査会 1982『若江遺跡発掘調査報告Ⅰ遺構編』

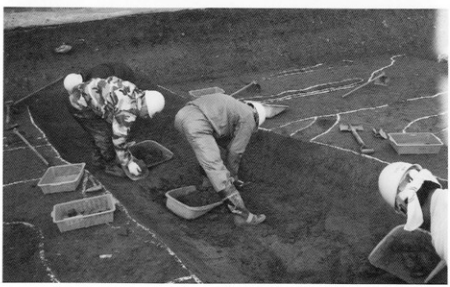
財団法人東大阪市文化財協会 1988『若江遺跡第38次発掘調査報告』

永井久美男編 1994『中世の出土銭－出土銭の調査と分類－』兵庫県埋蔵銭調査会

図版1　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

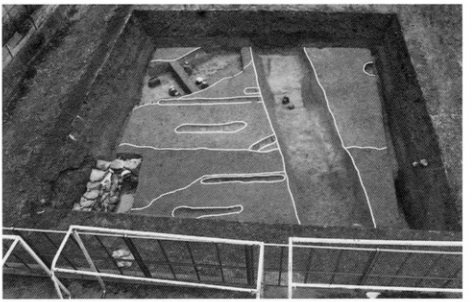
1．本調査箇所
調査前風景
（南より）

2．本調査箇所
機械掘削
（南より）

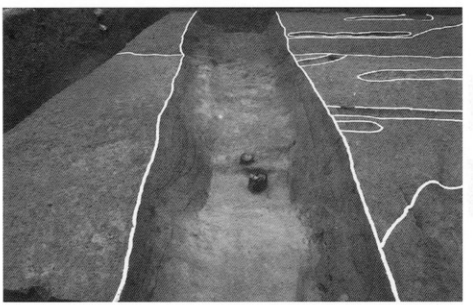


3．本調査箇所
調査風景
（南東より）

図版2　若江遺跡第87次発掘調査　遺構



1．本調査箇所
第1面完掘状況
（西より）

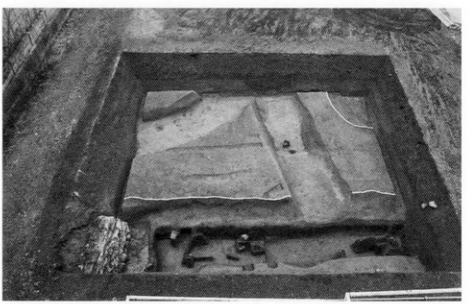


2．本調査箇所
SD01 完掘状況
（東より）

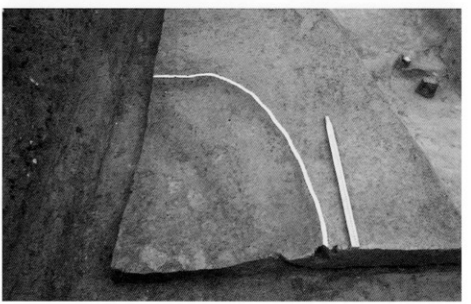
3．本調査箇所
SD08 遺物
検出状況
（南より）

図版3　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

1．本調査箇所
SD08 壁断面
（南より）



2．本調査箇所
第2面完掘
（西より）



3．本調査箇所
SK11
（東より）

図版4　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

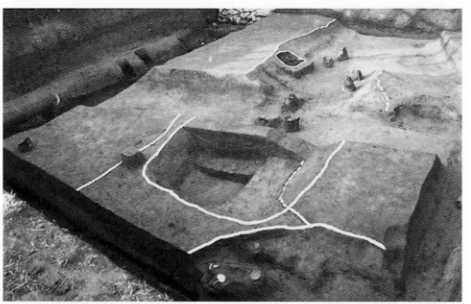
1．本調査箇所
SD10
（北より）

2．本調査箇所
SD10
（南より）

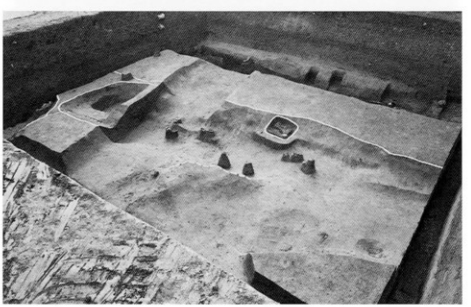
3．本調査箇所
SD10 遺物
出土状況
（北東より）

図版5　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

1．本調査箇所
第3面遺構検出
状況
（西より）



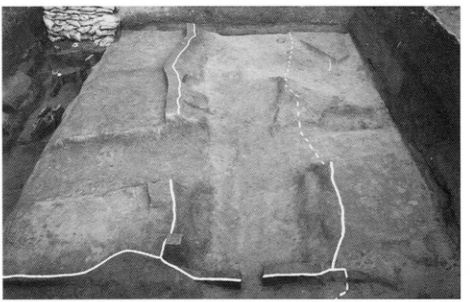
2．本調査箇所
第3面完掘遺構
検出状況
（南東より）



3．本調査箇所
第3面完掘遺構
検出状況
（北東より）

図版6　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

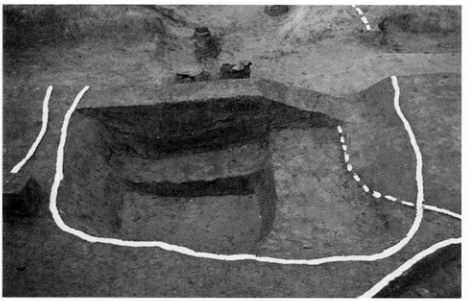
1．本調査箇所
SD12 遺物
出土状況
（南西より）



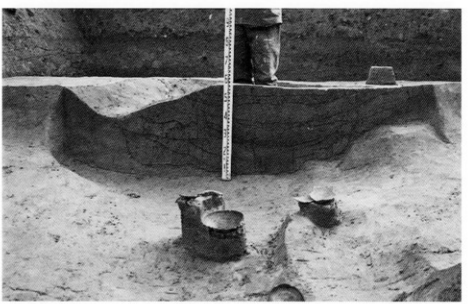
2．本調査箇所
SD12 完掘状況
（南より）

3．本調査箇所
SK13 遺物
検出状況
（南より）

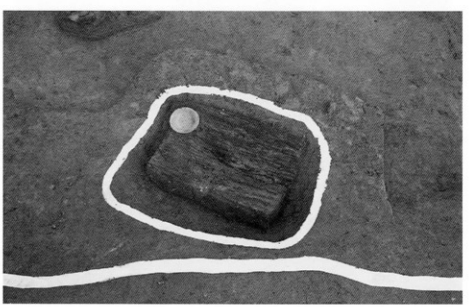
図版7　若江遺跡第87次発掘調査　遺構



1．本調査箇所
SK14
（南より）

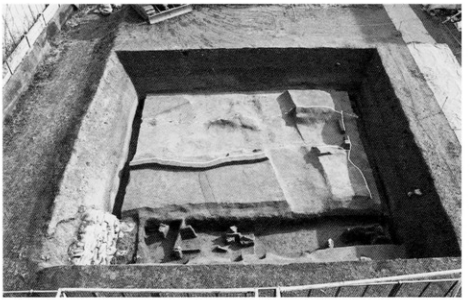


2．本調査箇所
SD12・SK14 断面
（北より）

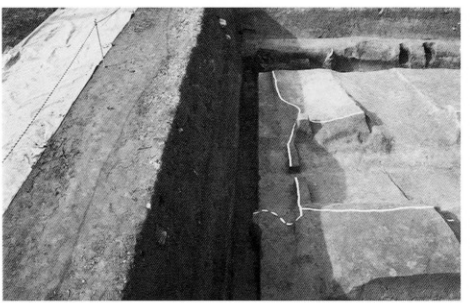


3．本調査箇所
SP15
（西より）

図版8　若江遺跡第87次発掘調査　遺構



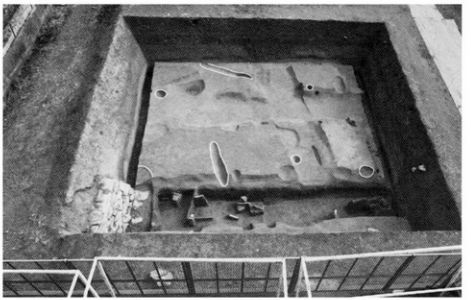
1．本調査箇所
第3面完掘状況
（西より）



2．本調査箇所
SD16完掘状況
（東より）

3．本調査箇所
SD16断面
（東より）

図版9　若江遺跡第87次発掘調査　遺構



1．本調査箇所
第4面完掘状況
（西より）

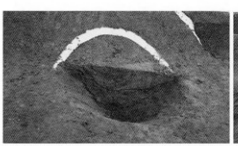
2．SP17 断面
（南より）

3．SP18 断面
（南より）

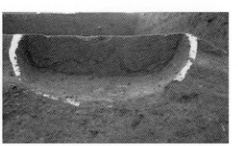
2～7．本調査箇所
第3面遺構
断面

4．SD19 断面
（南より）

5．SD20 断面
（東より）

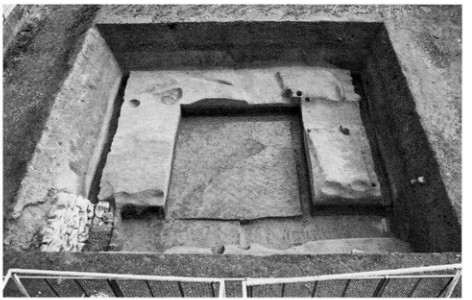


6．SP21 断面
（西より）



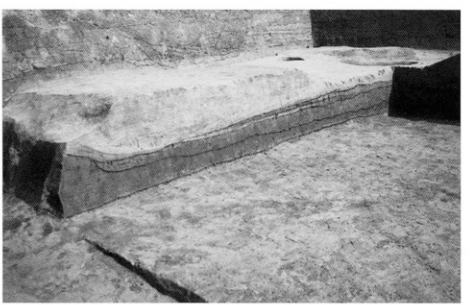
7．SP23 断面
（西より）

図版10　若江遺跡第87次発掘調査　遺構



1．本調査箇所
第5面完掘状況
（西より）

2．本調査箇所
第5面遺構
検出状況
（西より）



3．本調査箇所
第5面北壁断面
（南西より）

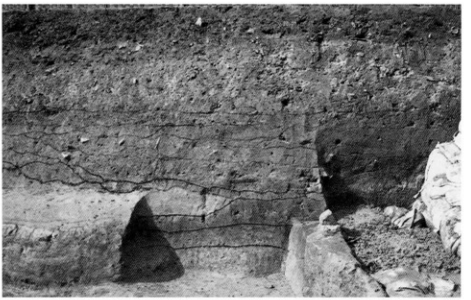
図版11　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

1．本調査箇所
東壁断面1
（西より）

2．本調査箇所
東壁断面2
（西より）

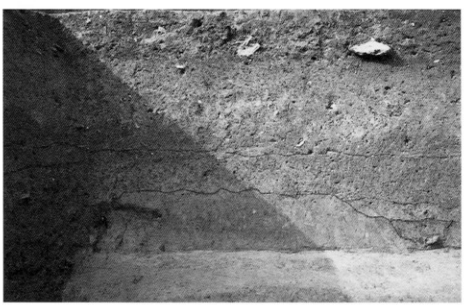
3．本調査箇所
東壁断面3
（西より）

図版12　若江遺跡第87次発掘調査　遺構



1．本調査箇所
西壁断面1
（東より）

2．本調査箇所
西壁断面2
（東より）



3．本調査箇所
西壁断面3
（東より）

図版13　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

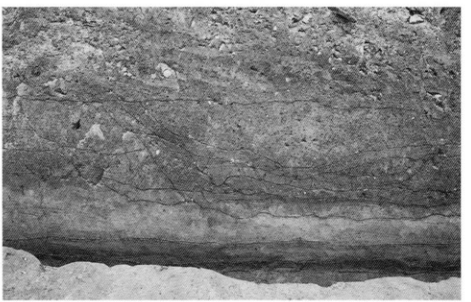
1．本調査箇所
南壁断面1
（北より）

2．本調査箇所
南壁断面2
（北より）

3．本調査箇所
南壁断面3
（北より）

図版14　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

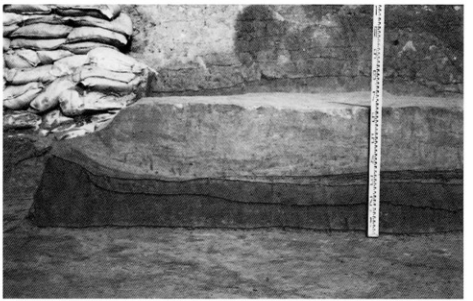
1．本調査箇所
北壁断面1
（南より）



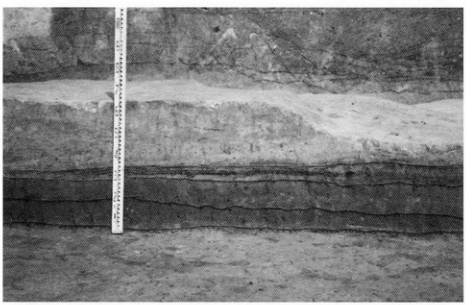
2．本調査箇所
北壁断面2
（南より）

3．本調査箇所
北壁断面3
（南より）

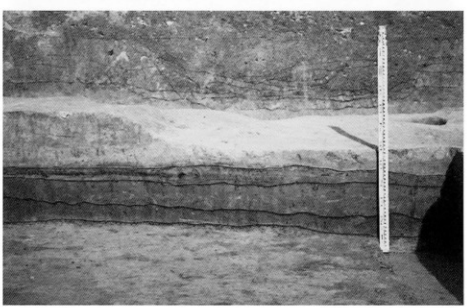
図版15　若江遺跡第87次発掘調査　遺構



1．本調査箇所
北壁断面4
（南より）



2．本調査箇所
北壁断面5
（南より）



3．本調査箇所
北壁断面6
（南より）

図版16　若江遺跡第87次発掘調査　遺構

1．本調査箇所
埋め戻し状況１
（南東より）

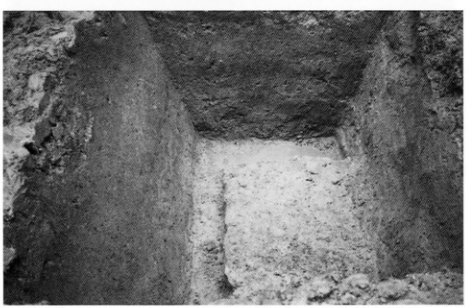
2．本調査箇所
埋め戻し状況２
（南西より）

3．本調査箇所
埋め戻し完了
（南東より）

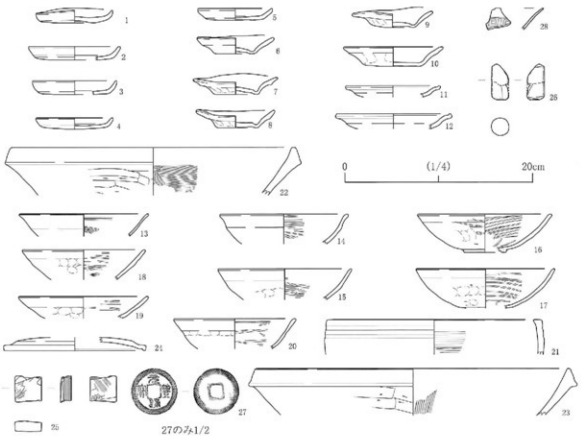
図版17　若江遺跡第88次発掘調査　遺構

1．本調査箇所
調査前風景
（南西より）

2．本調査箇所
東壁断面
（北西より）



3．本調査箇所
完掘状況
（北より）



第４図　岩田遺跡第３次調査出土遺物実測図

4）出土遺物（第４図）

①土師器皿

１～12は土師器皿である。

１～５は、底部は平底を呈し、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部を指押さえし、口縁部内外面はヨコナデ調整を行う。１～４は上層、５は先行トレンチ出土。12 世紀後半の所産である。

６～９は、底部は上げ底を呈し、体部は逆八の字型に開く。口縁部はやや肥厚し外反する。口縁端部は丸く終わる。７・９は体部と口縁部の間に稜線をもつ。６・７は上層、８・９は先行トレンチ出土。全て 15 世紀前半の所産である。

10は、底部は平底を呈し、体部は逆八の字型に開く。口縁部はやや肥厚し外反する。口縁端部は丸く終わる。体部と口縁部の間に稜線をもつ。上層出土。16 世紀前半の所産である。

11・12は、口縁部は外反し、口縁端部を内側に巻き込む。風化により調整方法は不明である。下層出土。11 世紀代の所産である。

②瓦器椀

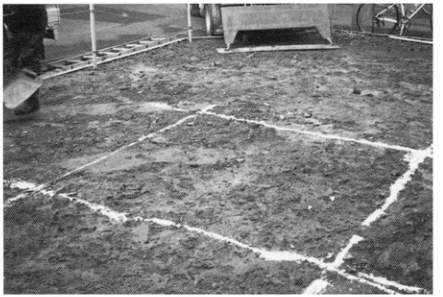
13～20は、瓦器椀である。

13・14は、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。下層出土。15は、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。先行トレンチ出土。いずれも 12 世紀後半。

16は、高台は台形を呈し、体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は外反する。見込みには平行線状の暗文が残る。下層出土。13 世紀中葉の所産である。

17は、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。下層出土。13 世紀中葉。

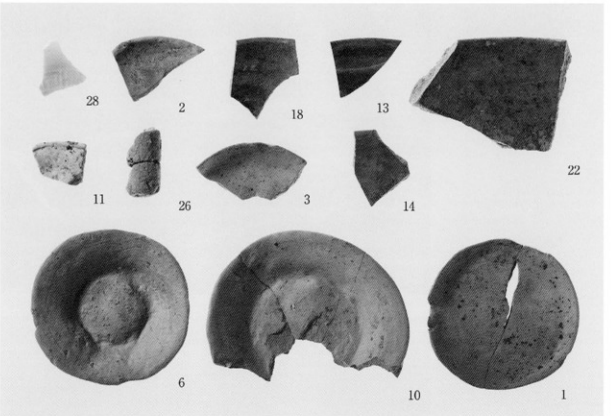
図版1　岩田遺跡第3次発掘調査　遺構



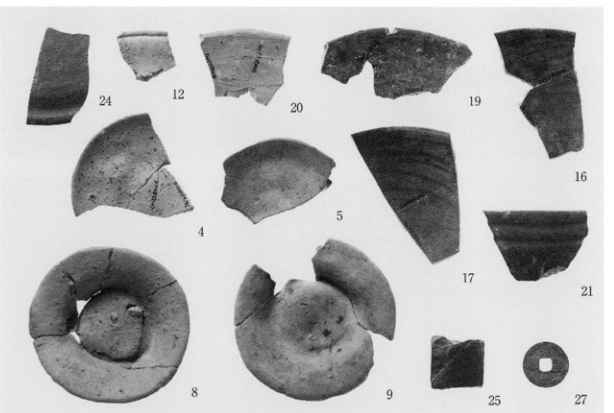
1．本調査箇所
調査区全景
（東より）

2．本調査箇所
北壁断面
（南より）

3．本調査箇所
完掘状況
（南西より）



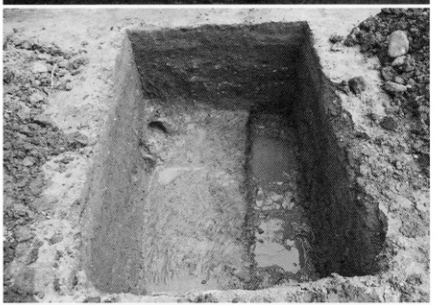
1．各層位出土　瓦器・白磁・土師器・土製品



2．各層位出土　瓦器・土師器・須恵器・石製品・銭

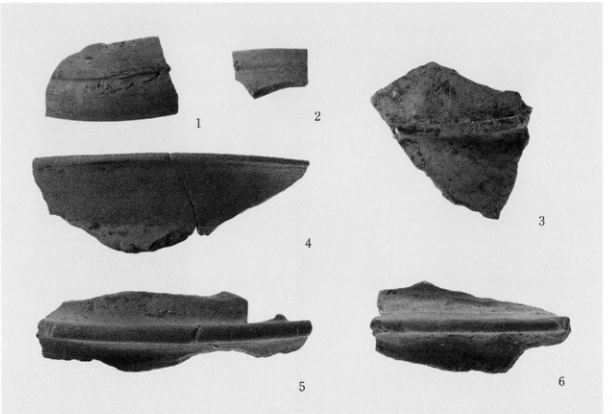
図版1　山畑古墳群第34次発掘調査　遺構

1．調査風景
（南西より）

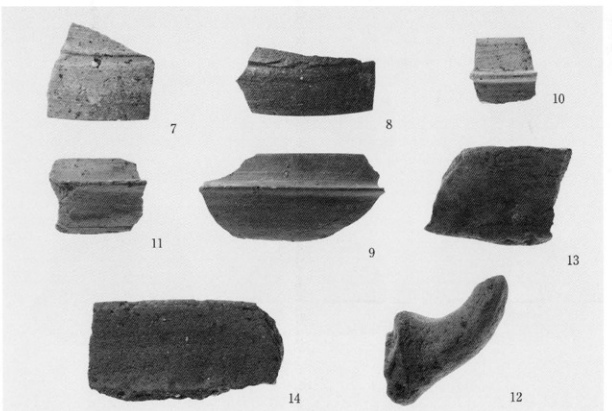


2．本調査箇所
第2面
（西より）

3．本調査箇所
北壁断面
（南より）

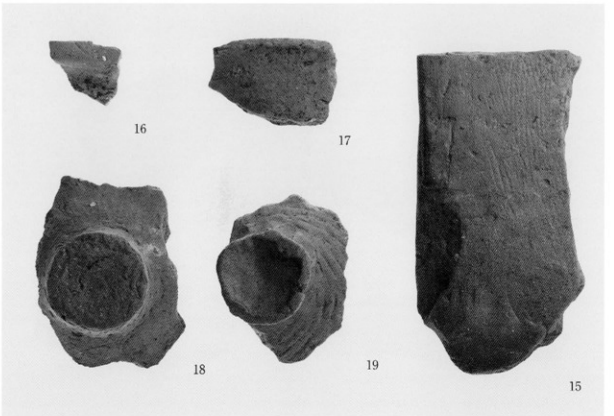


1．第3層出土　須恵器、土師器、弥生土器

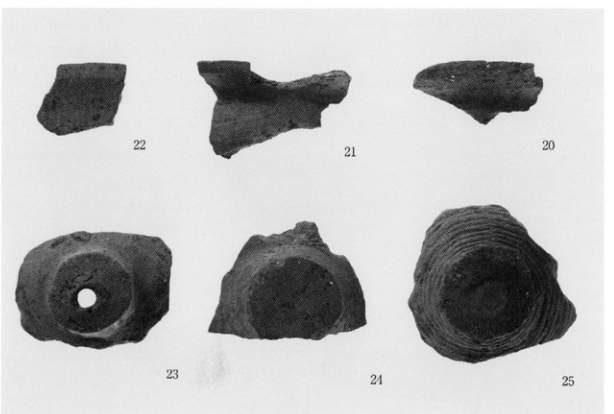


2．第4層出土　須恵器、土師器

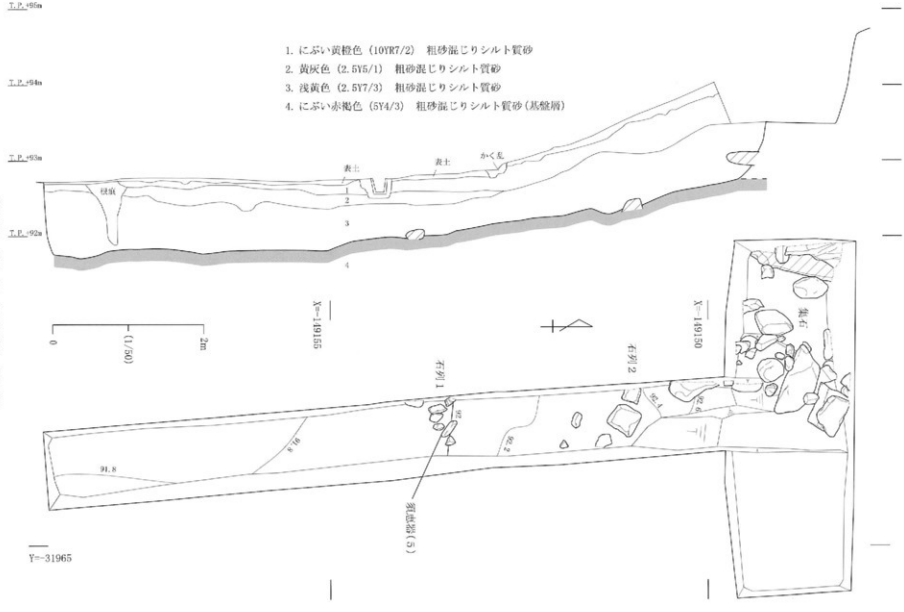
図版3　山畑古墳群第34次発掘調査　遺物



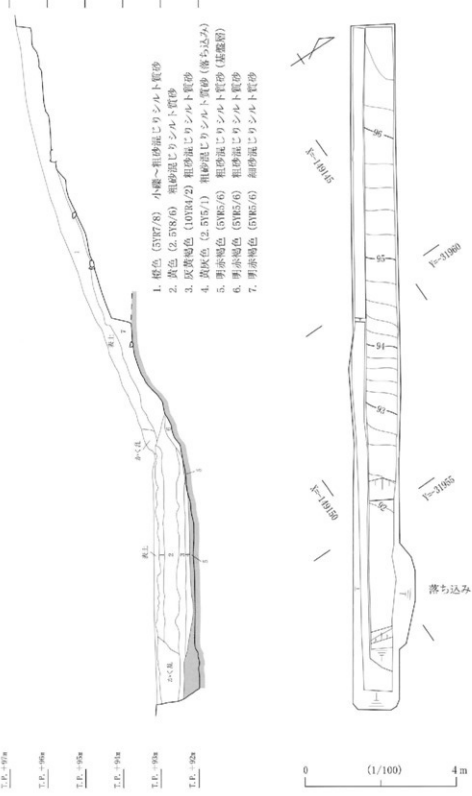
1．第4層出土　土師器、弥生土器



2．第5・6層出土　弥生土器



第4図　第1トレンチ平面・断面図



第６図　第２トレンチ平面・断面図

図版1　岩滝山遺跡第11次発掘調査　遺構

1．高塚古墳全景
（南東より）

2．第1トレンチ
調査箇所
（南より）

3．第1トレンチ
全景
（南より）

図版2　岩滝山遺跡第11次発掘調査　遺構

1．第1トレンチ
石列1
（南より）

2．第1トレンチ
石列2
（南より）

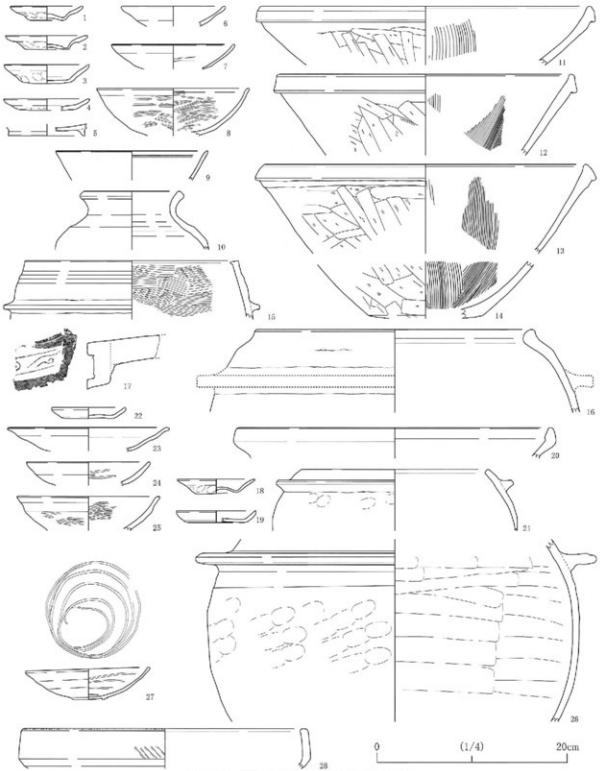
3．第1トレンチ
集石
（南西より）

図版3　岩滝山遺跡第11次発掘調査　遺構

1．第2トレンチ
全景
（南東より）

2．第2トレンチ
傾斜変換点
（南より）

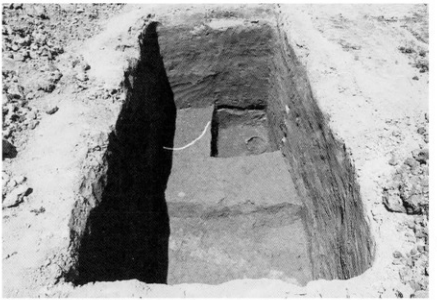
3．第2トレンチ
基盤層と造成土の境
（北より）



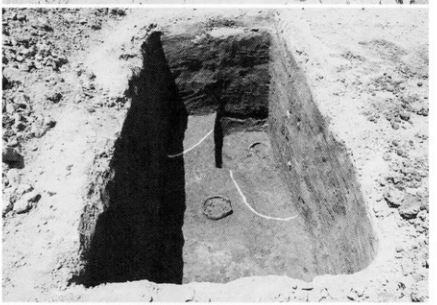
第６図　薬師寺跡第１次調査出土遺物

９は中国製青磁碗である。内面に２本の圏線がめぐる。10は瓦質土器壺である。11～14は瓦質土器擂鉢である。外面はケズリ調整を行い、内面は密に擂目を施す。いずれも15世紀であろう。15・16は羽釜である。15は瓦質土器で、内面にハケメを施す。15世紀。16は土師質土器である。鍔部を欠損している。13世紀後半。17は軒平瓦である。唐草文。15世紀。

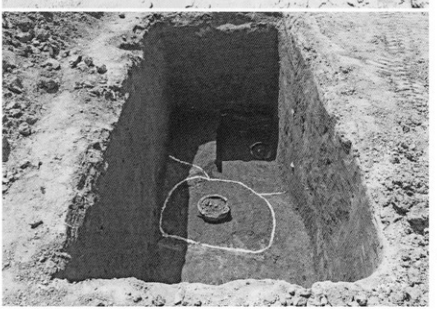
図版1　薬師寺跡第1次発掘調査　遺構



1．本調査箇所
第2面検出状況
（東より）

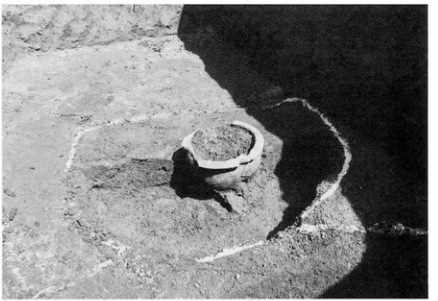


2．本調査箇所
第2面完掘状況
（東より）



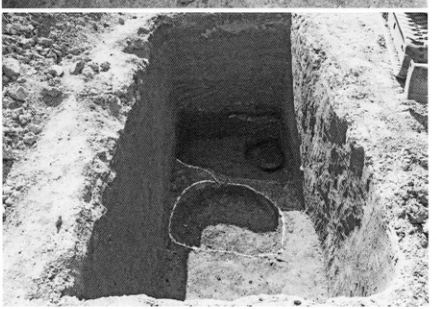
3．本調査箇所
第3面検出状況
（東より）

図版2　薬師寺跡第1次発掘調査　遺構



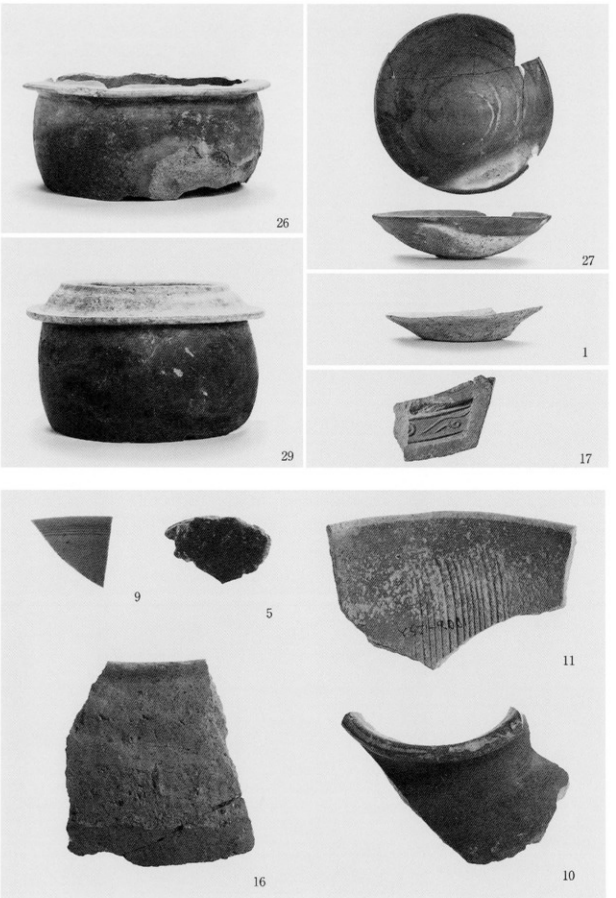
1．本調査箇所
井戸1
（西より）

2．本調査箇所
井戸2
（南東より）



3．本調査箇所
第3面完掘状況
（東より）

図版3　薬師寺跡第1次発掘調査　遺物



1．第9・10層出土　青磁、黒色土器、土師質土器、瓦質土器

第９章　馬場川遺跡第21・22次発掘調査

馬場川遺跡第21次

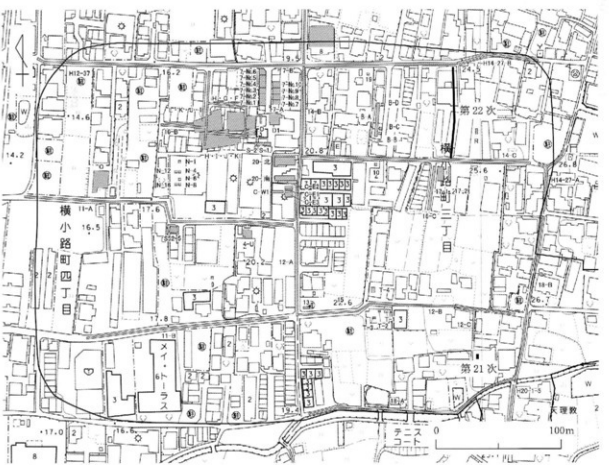
１）はじめに

馬場川遺跡は、横小路町三丁目から四丁目に所在する縄文時代中期から江戸時代にわたる複合遺跡である。本遺跡は、昭和44（1969）年工場建設に伴い多量の縄文土器が出土したことから、その存在が明らかとなり、それ以降これまでに20次におよぶ発掘調査が行われてきた。

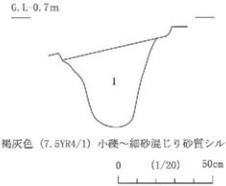
特に、縄文時代晩期前葉から中葉にかけての集落跡が良好な状態で遺存しており、多数の土偶・土製品が出土する遺跡として知られている。

２）調査の経過

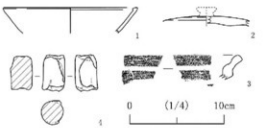
平成25年８月、東大阪市横小路町三丁目1173番、1174番の各一部において、個人住宅建設に伴う「埋蔵文化財発掘の届出」が提出された（第１図）。当該建物の基礎工事は、表層改良工事を含むもので、埋蔵文化財への影響が懸念されたため、事前の確認調査が必要な旨を届出者に通知した。その後、平成25年９月６日に埋蔵文化財の確認調査を実施した。調査の結果、調査トレンチGL-0.8mから-1.1mの間で須恵器、土師器、縄文土器が出土し、ピットを検出した。この結果に基づき協議代理者との取り扱いについて協議を行い、平成25年９月９日からトレンチを設定して調査を行った。調査面積は合計で18.2㎡である（第２図）。



第１図　調査位置図



第5図　ピット1断面



第6図　馬場川遺跡第21次調査遺物実測図

本調査箇所　ピット1（東より）

本調査箇所　第2面（南より）

5）まとめ

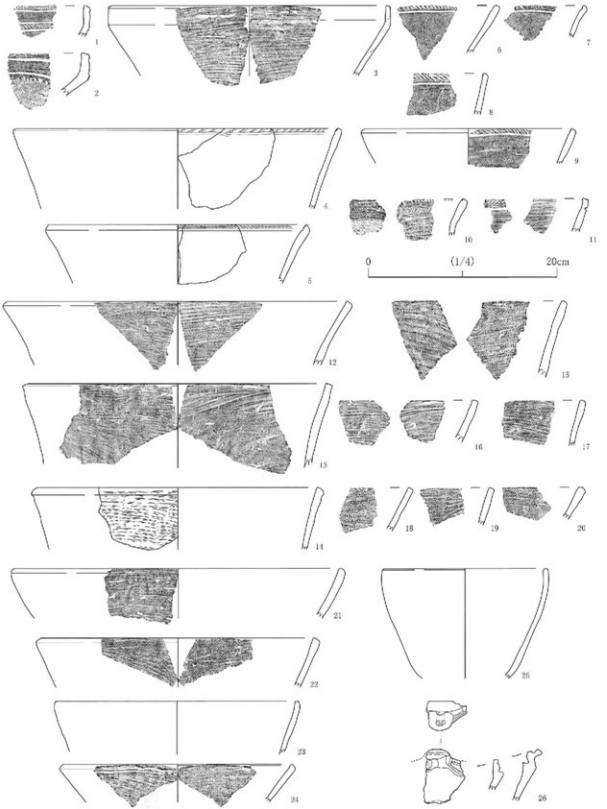
今回の調査では、奈良時代から平安時代の河川を検出した。すぐ南に位置する箕後川の古流路と考えられる。

当該調査区は、馬場川遺跡でも最も南に位置する地点である。これまで下水道敷設に伴う調査が行われていただけで、様相は不明な点が多かった。今回、調査範囲は狭いが古墳時代の遺構を検出できたのは大きな成果である。また、縄文時代晩期中葉の土器と土偶は、縄文時代の集落の範囲や生活域を考えるのに重要な成果となった。

馬場川遺跡第22次

6）調査の経過

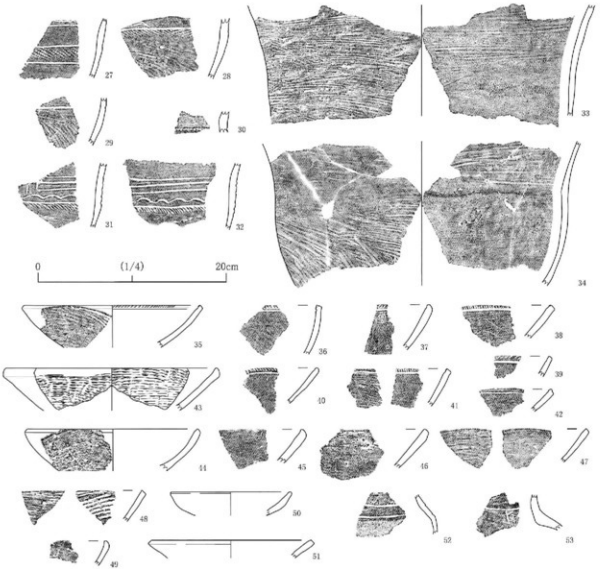
平成25年6月、東大阪市横小路町三丁目459番1において、宅地造成に伴う「埋蔵文化財発掘の届出」が提出された（第1図）。当該工事は、下水道敷設工事を含むもので、埋蔵文化財への影響が懸念されたため、事前の確認調査が必要な旨を届出者に通知した。その後、平成25年8月14日に埋蔵文化財の確認調査を実施した。調査の結果、調査トレンチGL-0.9mから-1.4mの間で縄文土器が多量に出土した。この結果に基づき協議代理者との取り扱いについて協議を行い、下水道敷設に伴う立会調査を平成25年9月11日から9月12日まで行った。



第８図　馬場川遺跡第22次調査出土遺物実測図

８）出土遺物

遺物は第３～５層から出土した。最も多く出土したのは第５層である。今回は縄文土器・石製品を報告する。



第９図　馬場川遺跡第22次調査出土遺物実測図

縄文土器は縄文時代後期中葉と晩期前葉に大きく分かれる。そのため、時期がわかる口縁部と体部片を形態ごとに報告し、時期があまり明瞭ではない底部と分けて報告する。

第５層（第８・９図）

縄文時代後期中葉

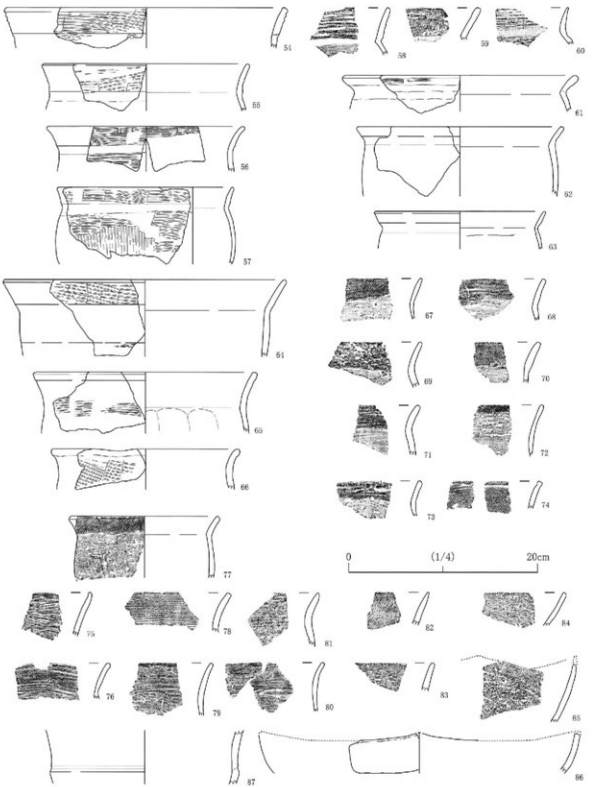
１～３は、ハの字に広がる口縁部に端部を屈曲させ平坦面を形成する深鉢である。１は沈線と擬縄文を施し、２は平坦面との境に刻みと沈線を施す。

４～20は、ハの字に広がる口縁部を持ち、端部外面に面取りを施す深鉢または鉢である。口縁部の断面形態は矩形を呈し、外面端部に面取りを行う。４～９は内面に沈線と刻目、10は刻目のみが施される。11は外面に沈線と擬縄文を施す。

21～25は緩やかに内湾する口縁部を持ち、砲弾形となる深鉢である。端部は丸くおさめる。

26は波状の口縁部に端部を屈曲させ平坦面を持つ深鉢である。匙状突起を持つ。

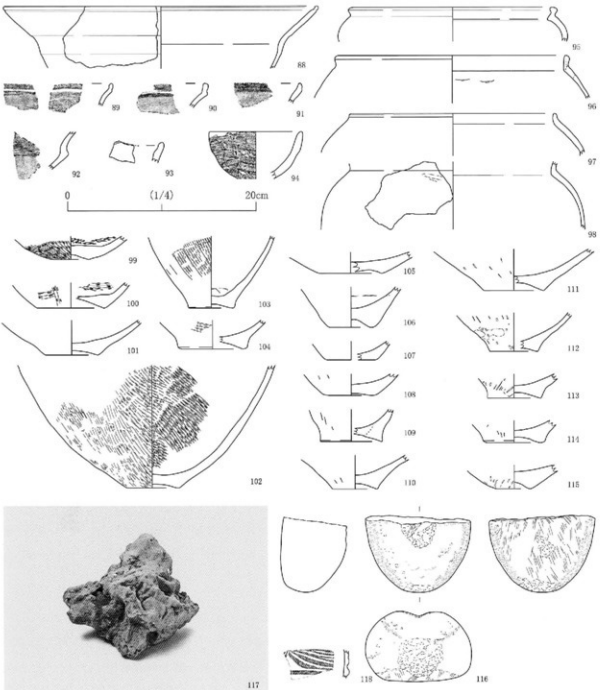
27～34は深鉢の体部である。27～29は沈線による区画に擬縄文を施す。30は沈線の中に刺突文が施される。31・32は沈線と連弧文を施し、体部と底部の境に刻目帯を配する。33・34は内外面と



第10図　馬場川遺跡第22次調査出土遺物実測図

も明瞭に巻貝条痕が残る。

35～50は椀形の浅鉢である。35～42は内面に沈線と刻目が配される。43～50は無文である。51は浅鉢と考えられるが、判然としない。



第11図　馬場川遺跡第22次調査出土遺物実測図

52・53は注口土器である。52は肩部、53は頸部に相当する。いずれも沈線による区画が施され内部に擬縄文が充填される。

晩期前葉～中葉（第10・11図）

54～63は、口縁部と体部の境にナデが一条めぐる深鉢である。54～61はいずれも外面に二枚貝条痕が残る。

64～73は口縁部下半から体部にかけてナデを施す深鉢である。二枚貝条痕を施したのちナデを行う。

74は、外面に二枚貝条痕を施したのち、ナデを行う。口縁端部を内傾へと肥厚させ、段差を設ける。